

# 作文方程式 【初級編】 説明文用テンプレート の使い方

説明文用テンプレート【初級編】の使い方をご説明します。

## 1. 方程式文の作成

### 1-1 下準備

まずは方程式文を作成しましょう。

方程式文というのは

「AはBである」

「なぜならCだから」

「ということはDだよ」

という三行からなるシンプルな文章であることはすでに（論説文用テンプレートの使い方説明書の中で）説明いたしました。

しかし、説明文の場合、以下のように若干形が変わります。

「AはBである」

「詳しく言うとCである」

「ということはDだよ」

説明文の場合、論拠を示すよりも詳細を説明したり、描写したりするのが主眼になるからです。

以下、この変形方程式にもとづくテンプレートの使い方をご説明します。

## 1-2 主題の入力

はじめに主題を入力します。主題というのは、これから説明しようとする対象です。「～について説明します」の「～」に当たる部分です。ここではそれを入力します。

▼ 作文方程式

1 行目

A: 説明したい主題はなんですか？

主題を簡潔に記入します。例：喜多方ラーメン

は

B: それを総論的に説明するとどういふ答えになりますか？

答えを簡潔に記入します。例：福島県喜多方市発祥のご当地ラーメンである

である

2 行目

C: もう少し詳しくいうと

詳細を完結に記入します。例：スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれ、食感は柔らかい。

である

3 行目

D: まとめると？

まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：美味しいから一度食べてみることをお勧めする。

だよ

アウトラインを書き出す

例文でいえば

喜多方ラーメン（について）

です。

## 1-3 答えの入力

次は答えの入力です。

▼ 作文方程式

1行目

A:説明したい主題はなんですか？

主題を簡潔に記入します。例：喜多方ラーメン

は

B:それを総論的に説明するとどういふ答えになりますか？

答えを簡潔に記入します。例：福島県喜多方市発祥のご当地ラーメンである

である

2行目

C:もう少し詳しくいうと

詳細を完結に記入します。例：スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれ、食感は柔らかい。

である

3行目

D:まとめると？

まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：美味しいから一度食べてみることをお勧めする。

だよ

答えを入力します

アウトラインを書き出す

ここでは問いに対する総論的、概略的な説明が答えになります。それを入力してください。

例文でいえば

福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

です。

ここでは抽象的な言葉でかまいませんので、できるだけひと言で言い切るようにしてください。そうしないと、あとで文章をつなぐのが難しくなります。

どうしてもひと言でいえない場合、「それは次のようなものである」などとつなぎの言葉を入力してください。

## 1-4 詳細を入力する

次は詳細です。

▼ 作文方程式

1 行目

A:説明したい主題はなんですか？

主題を簡潔に記入します。例：喜多方ラーメン

は

B:それを総論的に説明するとどういふ答えになりますか？

答えを簡潔に記入します。例：福島県喜多方市発祥のご当地ラーメンである

である

2 行目

C:もう少し詳しくいうと

詳細を完結に記入します。例：スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれ、食感は柔らかい。

である

詳細を入力します

3 行目

D:まとめると？

まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：美味しいから一度食べてみることをお奨めする。

だよ

アウトラインを書き出す

前段階では総論的、抽象的な言葉で簡潔に全体像を説明しました。しかし当然ながら、それだけでは十分な説明にはなりません。

ここでは「もっと詳しく言うのと？」という観点からその詳細を記入します。ただし、ここでもできるだけ簡潔な表現をこころがけてください。

例文では

スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれ、食感は柔らかい。

とその特徴をより詳細に説明しています。

また説明することが多岐にわたる場合、すべてをここに入力するのは現実的ではありませんので、要点を箇条書きにし、それを列挙するとよいでしょう。

入力しきれなかったものは別途メモに残しておくことをオススメします。あとで文章を膨らませる際の参考になるはずです。

## 1-5 まとめを考える

次はまとめを入力します。

ここでは「主題」→「答え」→「詳細」というそれまでの流れを受けて、「ということは～」もしくは「だから～」という形でまとめとなる文を入力してください。

▼ 作文方程式

1 行目

A:説明したい主題はなんですか？

主題を簡潔に記入します。例：喜多方ラーメン

は

B:それを総論的に説明するとどういふ答えになりますか？

答えを簡潔に記入します。例：福島県喜多方市発祥のご当地ラーメンである

である

2 行目

C:もう少し詳しくいうと

詳細を完結に記入します。例：スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれ、食感は柔らかい。

である

3 行目

D:まとめると？

まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：美味しいから一度食べてみることをお勧めする。

だね

まとめを入力します

アウトラインを書き出す

まとめに入る内容としては、一般に「結論の再確認」「課題の明確化」「メリットの提示」「補足」「感想」「行動促進」「願望」などがあります。

例文では

美味しいから一度食べてみることをお勧めする

とそのメリットを提示するとともに読者の行動を促す内容になっています。

以上で方程式文は完成です。

## 2. アウトラインを作成する

### 2-1 アウトラインの書き出し

次はいよいよアウトラインの作成です。

といってもここはそう難しいものではありません。基本的には前のステップで入力したものをそのまま、もしくは若干肉付けして再入力するだけだからです。

ただし、ここには若干のコツがあります。それは

- 主語と述語を明確にすること
- 一文一意とすること

です。

またその際、修飾語など枝葉の部分はなるべく削ぎ落とした上で「AはBである」という形のシンプルな文にするよう心がけてください。

こうすることで文の骨格が安定します。骨格が安定すればあとで肉付けする際、枝葉となる語句を付け加えてもねじれのないわかりやすい文に仕上げることができます

なお前のステップで入力したものは自動的に反映されません。お手数ですが、コピー＆ペーストなどでご対応いただければと思います。

さて指示通りに入力したら最後に「アウトラインを書き出す」を押してください。

▼ 作文方程式

1 行目

A:説明したい主題はなんですか？

主題を簡潔に記入します。例：喜多ガラーメン

は

B:それを総論的に説明するとどういふ答えになりますか？

答えを簡潔に記入します。例：福島県喜多市発祥のご当地ラーメンである

である

2 行目

C:もう少し詳しくいうと

詳細を完結に記入します。例：スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれ、食感は柔らかい。

である

3 行目

D:まとめると？

まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：美味しいから一度食べてみることをお勧めする。

だよな

アウトラインを書き出す

そうするとアウトラインが表示されます。

これでいったん作業は完了です。

お疲れ様でした。

## 2-2 肉付けする

ここであらためてアウトラインを読んでみてください。

いかがでしょうか？

ぶつかりで表現もこなれていないかもしれませんが、いわんとすることの6割～8割は伝わる文章になっているのではないのでしょうか？

あとはそれを10割に近づけるだけです。そしてそのための作業が「肉付け」になります。

肉付けというのは、言葉を補ったり、別の言葉に変えたりして表現をブラッシュアップすることです。

どう肉付けするかは自由です。よりわかりやすい表現になるよう各自工夫しながら推敲を重ねてみてください。

なおここでは具体的な肉付け方法については触れません。文章の表現力を高めるノウハウ本はすでに数え切れないほど出版されていますし、ネット上にも同様のサイトがたくさんあるからです。

※正直いうと、表現力に関しては私もあまり自信がありません。少なくとも皆さんに教えられるほどの表現力は持ち合わせておりません。恐縮ではございますが、表現力を高める方法については出版物やネット上のサイトなどに当たっていただければと思います。

代わりに、ここでは肉付けする際のヒントだけ記しておきます。

肉付けの方法には大きく分けて次の二通りがあります。

## 1、表現を膨らませる

言葉を補い、よりわかりやすい表現に直します。とくに意味が伝わりにくかったり、誤解を招くような部分は言葉を尽くしてきちんと説明します。

ただし文章はシンプルイズベストです。表現を手直した結果、かえって短い文になったとしても簡潔にしてわかりやすいのであれば、それがベストです。無理に膨らませる必要はありません。

## 2、情報を追加する

肉付けする一番簡単な方法は情報を追加することです。それらを必要に応じて追加してください。ただしいうまでもありませんが、追加する情報は論旨に沿ったものでなくてはなりません。たんに字数を膨らませる目的で無関係な情報を混ぜ込んでしまえば、論旨がわかりにくくなってしまいます。

また論旨に沿った情報であれば、それにふさわしい場所が必ずあるはずです。全体の論旨と前後の流れを確認しながら、ふさわしい箇所に追加してください。逆にふさわしい場所が見つからないのは、それが不要な情報である証拠です。そのような情報を無理に入れ込む必要はありません。